# 改正カリキュラムにおける「地域・在宅看護論」に対応した教育プログラムの取り組み

# Efforts for educational programs that correspond to community/home nursing theory in the revised curriculum

壬　生　寿　子

要　旨

地域包括ケアシステム構築の動きが進み、患者をはじめとする対象のケアを中心的に担う看護職員の就業場所が医療機関に限らず在宅や施設へと広がっている。さらに、多様な場で多職種と連携しながら適切な保健・医療・福祉の提供が期待され、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている。在宅看護は人々の生活の場での活動であり、母性、小児から高齢者、終末期を含むすべてのライフステージの人々が対象となり、活動内容も多岐にわたる。それに伴い看護教育において、2022 年の改正カリキュラムでは「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」の名称変更とともに、単位数が 2 単位増となり「基礎看護学」の次に位置づけられた。そこで「地域・在宅看護論」において 1 年次に配当した「地域保健学」の実践内容を報告し、今後の「地域・在宅看護論」の教育のあり方を検討する資料とすることを目的とする。分析対象は「地域保健学」を履修した看護学科 1 年生 43 名が提出した「地域保健学受講後の学びと受講後の学びを今後どのように活かすか（以後「今後の課題」）のレポート」に対して、研究に同意が得られたレポートを研究対象とした。分析の結果は 192 の「学び」と 85 の「今後の課題」の合計 277 のコードが抽出され、46 サブカテゴリー、10 カテゴリー、5 コアカテゴリーが形成された。そして、「学び」では【看護の多様性】【地域包括ケアシステム・多職種連携の理解】【学習の効果】、「今後の課題」では【保健・医療・福祉の役割】【継続学習の重要性】のコアカテゴリーが形成され、学生はフィールドワーク、課題への取り組み、グループワークを通して自己の課題・目標について考えを深めていた。1 年次からの「地域・在宅看護論」の取り組みによる学修成果やその後の各専門領域の授業および実習への影響等、評価や検証が課題であることが示唆された。

キーワード：　改正カリキュラム　　地域・在宅看護論　　地域保健学

## Ⅰ．はじめに

少子高齢化が一層進む中で、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステム構築の推進に向け、人口及び疾病構造の変化に応じた適切な医療提供体制の整備が必要である[1)]。また、患者をはじめとする対象のケアを中心的に担う看護職員の就業場所は医療機関に限らず在宅や施設へと広がり、多様な場において、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されており、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている[2)]。このような状況の中で、国民や時代のニーズに即した看護職員の養成に期待が高まり、厚生労働省では 2018 年から「看護基礎教育検討会」を開催し、現在の教育実態を踏まえ、将来を担う看護職員を養成するための看護基礎教育の内容と方法について検討を重ね、2019 年 10 月カリキュラム改正案や教育体制及び教育環境について報告書がとりまとめられた[3)]。また、文部科学省においても大学にお

ける看護系人材養成の在り方に関する検討会を開催し、厚生労働省における検討会の動向に呼応して「保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正を改正する省令の公布」をし、その適応に関する課題と対応策について検討を行い、2019 年 12 月に報告書が取りまとめられた[4]。その後指定規則の改正により、看護師学校養成所カリキュラムの中で「専門分野」区分の教育内容である「在宅看護論」について、名称を「地域・在宅看護論」に改めるとともに、規定順を変更し、基礎看護学の次に位置づけ、単位数を 4 単位から 6 単位に 2 単位増とし、2022 年 4 月 1 日から施行された。さらに実習についても、地域に暮らす人々の理解をそこで行われる看護について学ぶことを強化するために、地域における多様の場での実習や多職種連携に関する実習が促進されることが追記された。この改正では、保健・医療・福祉の理解を基盤とした地域包括ケアシステムにおける看護職の役割の重要性が示された[5]。本学においてもカリキュラム検討ワーキンググループを立ち上げ、検討を重ねた。「地域・在宅看護論」の規定順が基礎看護学の次に位置づけられたことから、既存の 2 年次後期開講科目の「地域保健学」を、対象者の療養の場の拡大や看護職の多様な場での活動、多職種連携の理解を深めるために、講義内容を一部変更し、1 年次後期に配当した。また既存の科目である「へき地看護活動論」を加え、改正カリキュラムに対応した「地域・在宅看護論」にあたる科目を 1 年次「地域保健学」(1 単位)、2 年次「地域・在宅看護概論」(2 単位)、3 年次「地域・在宅看護援助論」(2 単位)、4 年次「へき地看護活動論（1 単位)」の 6 単位とし、「地域・在宅看護実習」(2 単位）を 4 年次配当の計 8 単位のカリキュラム構成とした。

そこで、1 年次から看護の対象を広い視野でとらえることができる講義内容としての「地域保健学」の講義内容を報告し、実践から見えた、学生の学びと今後の課題を明らかにし、「地域・在宅看護論」教育のあり方を検討資料とすることを目的に実践内容を報告する。

## Ⅱ．用語の定義

本研究で用いる「学び」とは「地域保健学」の受講を通して理解したことや認識、「今後の課題」とは受講後「学び」を今後どのように活かして行きたいかの記述内容とする。

## Ⅲ．研究方法

1. 研究対象およびデータ収集方法

本学で 2023 年度に地域保健学（必修）を履修した看護学科 1 年生 43 名が講義終了後に提出した A4 用紙 1 枚に記載された「地域保健学を受講しての学びと受講しての学びを今後どのように活かしたいかについての記述」(以後レポートとする）を研究の趣旨や研究方法について、同意が得られた学生のレポートのみを研究対象とした。

2. 分析方法

内容分析の手法を用いて分析した。地域保健学の「学び」「今後の課題」に関連する記述を抽出したのちコード化し、内容が一文一義であるように区切り、一文章を一記録単位とした。次に個々の記録単位を意味内容が類似しているもの毎に帰納的に分類し、カテゴリー化した。記述内容の類似性によりサブカテゴリーを抽出後、分類整理しカテゴリーとした。最終的にカテゴリー間の関連を検討し「地域保健学講義での学び」「今後の課題」それぞれのコアカテゴリーを形成した。レポート内容は研究者が精読し、分析を行った。

3. 倫理的配慮

研究の目的・方法について 2023 年 12 月 20 日に口頭および文書で説明し、同意書の提出を依頼した。レポートは研究以外には使用しないこと、参加は自由であり、成績に影響はなく個人を評価するものではないこと、同意後も撤回できることを説明した。また、同意書未提出のレポートを除き同意書が提出され、同

意が得られたレポートをコピー後、個人名を」削除したレポートを使用することを説明し、分析を行った。開示すべき COI は無い。

本研究は、八戸学院大学・八戸学院短期大学部研究倫理委員会規定の承認を得て、実施した。(受付番号 23-19)。

## Ⅳ. 地域保健学講義実施内容

1.学習目的

人々の医療・療養の場は病院中心から在宅・地域中心への転換が進み、看護の対象となる人々の生活の場は在宅・地域へ移行しており、看護職の地域での活動が必須である。これらに対応するために、地域で生活を支える社会的、政策的背景を理解し、多職種連携や地域連携の基本的知識を習得する。地域の様々な場で支援を必要とする対象者とその家族の理解、生活の場としての地域の理解、継続看護、在宅医療・在宅看護を含めた地域包括ケアシステムについて理解する。

2.到達目標

1) 地域の人々を生活者としてとらえ生活と健康について説明することができる。

2) 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域・健康・生活・家族と関連を理解することができる。

3) 地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉の関連を含めた多職種・多機関の連携および協働の必要性を考え、看護職の役割を説明することができる。

3.地域保健学の講義概要

講義は全 8 回で構成され、講義概要については表 1 に示す通りである。

1)講義 1 回目の学習課題は「地域で暮らす人々の生活と健康・看護の理解」とし、①生活（暮らし）とは、について自分の考えを 4～5 人のグループでディスカッション後、グループ発表をし、情報共有をした。②保健・医療・福祉の概念理解についてはそれぞれの内容の講義を行った。1 回目の講義内容を踏まえ、地域、

表 1　講義概要

| 回 | 講義内容 |
|---|---|
| 1 | 地域で暮らす人々の生活（暮らし）と健康・看護の理解<br>1）生活（暮らし）とは　2）保健・医療・福祉の概念理解<br>※　課題①提示：フィールドワーク：自分の住む地域（一次生活圏）の探索 |
| 2 | 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護<br>1）地域アセスメント　2）地域包括ケアシステム　3）各種制度 |
| 3 | 地域を「見る」・「知る」意義：地域を探索しての情報交換<br>1）課題①についてグループワークによる情報共有　2）全体ワークで内容発表<br>※　課題②提示：各自が選択した地域の地域包括ケアシステムの取り組みをまとめる |
| 4 | 地域で健康に暮らすための看護の役割①　ワークシートによる学習<br>事例検討：暮らしを支援するための看護師の役割<br>1）事例検討　2）ワークシートで個人ワーク　3）グループワーク　4）全体ワーク・発表 |
| 5<br>6<br>7 | 地域で健康に暮らすための看護の役割②　演習・DVD 学習<br>1）事例検討：　① 四肢麻痺の A さん　② 医療的ケア児 B さん<br>③ 老老介護の C さん　④ 認知症の D・E さん<br>2）DVD 視聴後ワークシートで個人ワーク　3）グループワーク　4）全体ワーク・発表 |
| 8 | 地域包括ケアシステムの必要性と発展<br>1）グループワーク内容発表　2）　4 事例の演習振り返り　3）講義まとめ |

生活、保健・医療・福祉の理解を深めるために、フィールドワークとして、自分の住む地域（一次生活圏）を自ら歩き探索することを課題レポートとして提示した。内容は①地域を保健・医療・福祉の視点を意識しながら探索すること、②探索して感じたことや考えを記載するように指導した。

2）講義 2 回目の学習課題は「地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護」とし、①地域アセスメントについて、②地域包括ケアシステムの概念、③地域療養を支える制度としての医療保険制度・介護保険制度等各種制度、④母子保健、⑤学校保健、⑥産業保健等関係法規について講義を行った。

3）講義 3 回目の学習課題は「地域を「見る」・「知る」意義：地域を探索しての情報交換」とし、講義 1 回目に提示した各自のフィールドワークの内容をグループワーク後、全体ワークで情報交換・共有・発表をした。3 回目の講義終了後、到達目標である「地域包括ケアシステムの理解」を深めるために、地域包括ケアシステムの取り組みは全国的に実施されていることから、「自分が関心を持っている全国どこかの地域を選び、その地域の地域包括ケアシステムの取り組みについて」課題レポートを提出させた。

4）講義 4 回目の学習課題は「地域で健康に暮らすための看護の役割①」の理解のため、独居高齢者の事例紹介をし、「暮らしを支援するための看護師の役割を考えよう！」をテーマにワークシートを使用し、事例についての個人ワーク、その後グループワーク、全体ワーク・発表と段階を踏みアウトプットするように講義を進めた。

5）講義 5〜7 回目の学習課題は「地域で健康に暮らすための看護の役割②」として、事例検討のために、地域で実際に生活している、表 1 に示した 4 事例を DVD で紹介し、講義 4 回目と同様の手法で、個人ワーク、グループワーク、全体ワーク・発表と講義を展開した。

6）講義 8 回目の学習課題は「地域包括ケアシステムの必要性と発展」とし、保健・医療・福祉の理解が深められるように、講義 5〜7 回で紹介した 4 事例についての情報交換・共有・発表をし、4 事例の模範内容を提示後、事例検討からの学びのまとめと講義全体のまとめをした。地域保健学講義終了後、「地域保健学受講での学び」「学びを今後どのように活かして行きたいか」のレポートを提出させた。

7）科目の評価は、課題①・課題②の内容、グループワークや授業への参加度などで総合的に判断し行った。

## Ⅴ．結果

1．結果の概要

抽出されたコード数は「学び」192「今後の課題」85 の合計 277 が抽出され。それぞれのコードをサブカテゴリー化、カテゴリー化し最終的にコアカテゴリーを形成した。文中ではコアカテゴリーを【 】カテゴリーを『 』サブカテゴリーを≪ ≫生データを“ ”で示す。

2．地域保健学受講での学び　　（表 2）

「学び」については 27 サブカテゴリー、6 カテゴリー、3 コアカテゴリーが形成された。

【看護の多様性の理解（91 件 47.4%）】ではカテゴリー『看護の役割・活動範囲の広さ（53 件 58.2%）』『地域で暮らす対象者の理解（38 件 41.8%）』【地域包括ケアシステム・多職種連携の理解（62 件 32.3%）】ではカテゴリー『地域包括ケアシステムの理解（32 件 51.6%）』『多職種連携の重要性（30 件 48.4%）』【学習の効果（39 件 20.3%）】ではカテゴリー『講義内容に対する反応（24 件 61.5 %）』『演習・課題への感想（15 件 38.5%）』が形成された。

3．今後の課題　　（表 3）

「今後の課題」については 18 サブカテゴリー、4 カテゴリー、2 コアカテゴリーが形成された。

【保健・医療・福祉の役割（32 件 37.6%）】ではカテゴリー『保健・医療・福祉の視点（16 件 50%）』『人間関係構築の重要性（16 件 50%）』

表2　地域保健学講義での学び

| コアカテゴリー（3） | カテゴリー（6） | サブカテゴリー（27） | コード（192） |
|---|---|---|---|
| 看護の多様性 | 看護の役割・活動範囲の広さ | 看護師は病院だけではなく様々な場面で役割がある | 31 |
| | | 看護師の活動範囲の広さを知った | 16 |
| | | 訪問看護が在宅看護を支える大きな役割である | 3 |
| | | 地域と看護はつながっていることを感じた | 3 |
| | 地域で暮らす対象者の理解 | 誰かの支援を必要としている人がたくさんいる | 14 |
| | | 人と人はつながっていて人間関係づくりが大切である | 7 |
| | | 病気を持っていても生活者として捉えることが必要である | 6 |
| | | コミュニケーションの大切さをより感じた | 5 |
| | | 病気は生活（人生）の一部であることを理解できた | 3 |
| | | 人々の生活を理解することは命を守ることにつながる | 3 |
| 地域包括ケアシステム・多職種連携の理解 | 地域包括ケアシステムの理解 | 保健・医療・福祉の視点の理解が深まった | 20 |
| | | 地域包括ケアシステムについて理解ができた | 7 |
| | | 人として生きることは生活行動にあると思った | 3 |
| | | 地域保健を知ることは地域発展や地域の活性化につながる | 2 |
| | 多職種連携の重要性 | 地域包括ケアには多職種の連携が不可欠である | 21 |
| | | 情報提供・情報共有・社会資源活用が重要である | 3 |
| | | 地域が主体となってサービスを提供することが大切である | 2 |
| | | 各種制度について学ぶことができた | 2 |
| | | 広報紙など身近にいろんな情報源があることを知った | 2 |
| 学習の効果 | 講義内容に対する反応 | 看護師の仕事へのイメージが変化した | 12 |
| | | 広い視野を持つことで学びへの変化を感じた | 6 |
| | | 自ら学ぶことは人々を守ることにつながることを学んだ | 3 |
| | | 視点を変えてみることで別な考えをすることができた | 3 |
| | 演習・課題への感想 | フィールドワークで自分の住む地域をより理解できた | 5 |
| | | 事例のDVD学習であらゆる人々を対象にしていることを知った | 5 |
| | | 地域包括ケアシステムの理解は難しかったが課題で深められた | 3 |
| | | グループワークで人にはいろんな考えがあることを知った | 2 |

表3　今後の課題

| コアカテゴリー（2） | カテゴリー（4） | サブカテゴリー（18） | コード（85） |
|---|---|---|---|
| 保健・医療・福祉の役割 | 保健・医療・福祉の視点 | 地域をもっと知り地域貢献をしていきたい | 7 |
| | | 保健医療福祉の視点を持ち看護を学びたい | 4 |
| | | 地域に対する視点が変化した | 3 |
| | | 多職種連携を大切にしたい | 2 |
| | 人間関係構築の重要性 | 様々な年代の人とコミュニケーションをとっていきたい | 4 |
| | | 人々に地域包括ケアについて情報提供をしていきたい | 3 |
| | | より良い生活づくりへの支援をしていきたい | 3 |
| | | 人間関係づくりを大切にしたい | 3 |
| | | 高齢者を尊重し傾聴を意識して関わって行きたい | 3 |
| 継続学習の重要性 | 適切な看護の提供 | 一人一人に合った適切な看護を提供したい | 10 |
| | | その人に合ったサービスの提供をしていきたい | 2 |
| | | 臨機応変に対応できるための知識・技術を身につけたい | 2 |
| | 継続的学びの必要性 | 未知のことを知ることができ学習意欲が湧いた | 20 |
| | | 保健師を目指したい思いが強くなった | 6 |
| | | 自分なりの考えを持ちたい | 5 |
| | | 地域包括ケア・保健医療福祉を意識して学び続けたい | 3 |
| | | 医療以外の学びや実習に向けてたくさん学びたい | 3 |
| | | へき地看護にあこがれる | 2 |

【継続学習の重要性（53 件 62.4%）】ではカテゴリー『適切な看護の提供（14 件 26.4%）』『継続的学びの必要性（39 件 73.6%）』が形成された。

## Ⅵ. 考察

地域包括ケアシステムが推進され、2040 年に向けて地域共生社会を目指しているわが国において、今回の改正カリキュラムは地域で暮らす人々の理解と地域で実践される看護の学びを強化することが求められた。そして「地域・在宅看護論」が「専門科目」を学ぶ前の基礎看護学の次に位置づけられたことは、1 年次から地域や暮らしを把握することで、在宅看護の目的であるすべてのライフステージの療養者・家族の QOL 維持・向上支援につながる学びにつながると考える。今回の改正カリキュラムの検討をするにあたり、本学における既存の関係法規を中心とした「地域保健学」の内容を「地域・在宅看護論」の趣旨に沿う内容にするため、「看護学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「地域看護論」に関連する内容」[6] を参考に、既存の講義内容を一部変更し、講義内容を検討した。また、全国保健師教育機関協議会教育課程委員会で 2019 年に再定義された「地域看護学」の定義によると「地域看護学とは行政看護、産業看護、学校看護、在宅看護だけにとどまらず、多様の場で生活する、様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら,効果的な看護を探求する実践科学としており、保健師、助産師、看護師の看護職に共通して求められる知識や能力を培う、基盤となる学問」として位置づけている」[7] としている。この内容を踏まえて、検討した結果、「地域・在宅看護論」の入り口として、1 年次からの「地域保健学」の取り組み内容は 2 年次の「地域・在宅看護概論」、3 年次の「地域・在宅看護援助論」へつながり、4 年次の「地域・在宅看護実習」では、本学においても実習施設に居宅支援事業所・地域包括支援センター・看護小規模多機能施設・サービス付き高齢者住宅等、多様な場での実習を組み入れていることから、１年次からの学びの積み重ねは実習に反映できると考える。

### 1. 地域保健学での学び

#### 1) 看護の多様性

『看護の役割・活動の範囲の広さ』について≪看護師は病院だけではなく様々な場面で役割がある≫≪看護師の活動範囲の広さを知った≫≪訪問看護が在宅看護を支える大きな役割である≫の内容に形成された。また『地域で暮らす対象者の理解』では≪誰かの支援を必要としている人がたくさんいる≫≪人と人はつながっていて人間関係づくりが大切である≫≪人々の生活を理解することは命を守ることにつながる≫等の内容で、看護の多様性の学びについては 47.4%であったことから、看護師の活動範囲が今までの医療機関での活動以外にも福祉施設や訪問看護ステーション、保育所・幼稚園など多様な場で展開されていることをフィールドワークや事例検討で学び得たと思われる。

#### 2) 地域包括ケアシステム・多職種連携の理解

『地域包括ケアシステムの理解』に対して保健・医療・福祉の視点を踏まえ、地域包括ケアシステムの概念についての講義と、表 1 に示す講義 3 回目に提示した課題②「各自が選択した地域の地域包括ケアシステムの取り組みをまとめる」に取り組んだことで、自ら調査し、まとめることにより≪保健・医療・福祉の視点の理解が深まった≫≪地域包括ケアシステムについて理解ができた≫≪人として生きることは生活行動にあると思った≫≪地域保健を知ることは地域発展や地域の活性化につながる≫と学んでいた。また『多職種連携の重要性』では≪地域包括ケアには多職種の連携が不可欠である≫≪各種制度について学ぶことができた≫などがあげられた。しかし、各種制度の理解については、少数の意見のため、社会背景が変化する中で、在宅ケアに関連る法制度、関係法規の理解の重要性や、基本的な内容を具体的に理解できるように、事例を用いるなど講義等の工夫が必要である。また、域域包括ケアシステム構築が推進されている中、

多職種・多機関との連携の重要性が高まっていることから、連携における看護の役割の必要性を考える機会となったと思われる。看護職はこれまでも、健康の保持増進のために予防的な介入を行う保健師や在宅療養生活を支える訪問看護師など、看護の対象を包括的にとらえるように活動してきた。今後ますます多職種連携において、看護職の果たす役割は拡大していくと考える。

3）学習の効果

『講義内容に対する反応』対しては≪看護師の仕事へのイメージが変化した≫≪広い視野を持つことで学びへの変化を感じた≫≪自ら学ぶことは人々を守ることにつながる≫が形成され、さらに『演習・課題への感想』では≪地域包括ケアシステムの理解は難しかったが課題で深められた≫の内容から、課題の提示は地域包括ケアシステムについて、具体的にイメージすることができ、効果的であったと思われる。≪フィールドワークで自分の住む地域をより理解できた≫≪グループワークで人にはいろんな考えがあることを知った≫≪事例の DVD 学習であらゆる人々を対象にしていることを知った≫が形成された。今回のフィールドワーク、課題への取り組み、さらに自己の考えを他者と共有するグループワークの体験を通して、自ら学ぶことの大切さを実感できたと思われる。

2. 今後の課題

1）保健・医療・福祉の役割

『保健・医療・福祉の視点』≪地域をもっと知り地域貢献をしていきたい≫≪保健・医療・福祉の視点を持ち看護を学びたい≫≪地域に対する視点が変化した≫『人間関係構築の重要性』では≪より良い生活づくりへの支援をしていきたい≫≪人間関係づくりを大切にしたい≫≪高齢者を尊重し傾聴を意識して関わっていきたい≫等が形成され、保健・医療・福祉のそれぞれの役割の理解を通して、地域で暮らす人々を、たとえ疾患を抱えていたとしても、単に疾患だけをとらえるのではなく、在宅看護の対象を生活者として、全人的にとらえる姿勢が持てたと考える。しかし、近年の学生がこれまでに比べ、人間関係が希薄化していることや、生活体験の不足が進んでいることから、看護職員として働くために、対象の多様な生活スタイルや文化等を理解することが必要とされている[8]。地域を基盤とするケアの構築が重要視される中、「まちの保健室」「暮しの保健室」と呼ばれる活動が日本看護協会の活動[9]を中心に、看護系大学でもみられるようになってきた。その機能は①暮らしや健康に関する[相談窓口]②在宅医療や病気予防についての市民との[学びの場]③アクティビティやおしゃべりなど[安全な居場所]④大学生らも活動に参画する世代を超えて繋がる[交流の場] ⑤医療や介護・福祉の[連携の場] ⑥地域ボランティアの[育成の場] として、全国各地で展開されている[10]。サブカテゴリーの≪様々な年代の人とコミュニケーションをとっていきたい≫の記載の中に“話を聞く、アドバイスするなどのコミュニケーション能力も大切である”“看護師になった時のために治療だけではなくコミュニケーションをとりながら治療をさせてあげたい”“ボランティア活動等で地域の人と関わる機会があるからその際にもこの学びを活かして行きたい”などがあげられていた。このことから、日常的にあらゆる人々との交流の機会を持つことのできる「まちの保健室」「暮しの保健室」などの機能を持った場所が学生の身近にあることが望ましいと考える。「まちの保健室」を開設している看護系大学では、学生にとっては「まちの保健室」の各事業に参加し、地域住民の方々とさまざまな関わり合いをもつ中で、コミュニケーション能力や健康生活の支援に関する実践能力向上につながっている[11]。との報告がある。この活動は、地域貢献につながる活動であり、学生の参画は様々な人々との交流ができ、貴重な体験となると思われる。また、今後、知

識として体得したことを活かしていくためには、広い視野で人々と関わりながら、身体的・精神的側面の理解に加え、社会的側面を支援するためのケアマネジメント能力を取得できる学習も必要であると考える。

2）継続学習の重要性

『適切な看護の提供』では≪一人一人に合った適切な看護を提供したい≫≪臨機応変に対応できるための知識・技術を身につけたい≫が形成され、対象者個々に目を向け、個別性を踏まえた看護の提供の必要性を感じ取れていたと思われる。次に『継続的学びの必要性』では≪未知の事を知ることができ学習意欲が湧いた≫≪自分なりの考えを持ちたい≫≪医療以外の学びや実習に向けてたくさん学びたい≫が形成された。また、講義計画内の DVD による学習では訪問看護活動の事例を紹介したことで、学生個々が在宅療養をしながら暮らす人々のイメージができたと思われる。個人ワーク後、自己の考えをグループで共有することで≪グループワークで人にはいろんな考えがあることを知った≫≪視点を変えてみることで別な考えをすることができた≫“自分が知らなかった地域の医療と看護介護の現状を学ぶことができ楽しかった”“なぜこのような仕組みを使うのか、これをやったら患者はどう思うのか一つ一つ考えながら行動していこうと思った”の記述から、広い視野を持ち学ぶことの大切さを感じ取れたと考える。さらに≪地域包括ケア・保健医療福祉を意識して学びたい≫≪保健師を目指したい思いが強くなった≫≪へき地看護にあこがれる≫では“保健師として働きたいと考えているので 1 年生の後期で地域包括ケアシステムについての学びは次につなげていくことができるのではないかと感じた”“今回の講義では保健師を目指したいとこれまでの思いを改めて感じ、より地域保健の分野の楽しさと重要性を感じる機会であった”“行政保健師になりたいと思っていたが想像していた保健師や地域における看護師の役割が明確になった”などの記載から、看護職の活動の広がりを理解し、広い視野を持てるように保健師資格取得を目指す学生が増加していくものと推察する。さらに“へき地看護に興味があり将来は病院がない地域や島を回り高齢者を支える仕事をしたいと思った”“地域とへき地医療の連携に興味がある”の記述に対しては、本学の地域特性から 4 年次に科目設定をしている「へき地看護活動論」の講義を通して、具体的な活動の講義内容で学びが深められると思われる。継続学習の重要性については 62.4%であることから、本講義により、切磋琢磨しなければならない自分自身に気づき、知識と体験を結びつけ、取り組むべき課題の明確化や看護に対する認識が向上したものと考える。今後、すべての人々を対象とした地域共生社会を支えて行くための学びを深めるためには、他専門領域と連携し、横断的な学習方法の検討が必要であり、1 年次からの取り組みによる学修成果やその後の各専門領域の授業および実習への影響等、評価や検証が課題である。

## Ⅶ. 結論

本学における「地域・在宅看護論」のカリキュラム構成の入り口として導入した「地域保健学」の講義の実践報告内容から以下のことが明らかにされた。

1. 人々の価値観や生活の多様性・複雑性、看護の多様性の理解には地域アセスメントのためのフィールドワーク、地域包括ケアシステム理解への課題の取り組みを 1 年次に体験することは、今後の学習に効果的である。

2. 地域共生社会を支えて行くための学びを深めるために、他専門領域と連携し、横断的な学習方法の検討が必要である。

3. 改正カリキュラム「地域・在宅看護論」において、1 年次からの取り組みは効果的ではあるが、学修成果や各専門領域の授業および実習への影響等、評価や検証が課題である。

## 引用・参考文献

1）2）3）厚生労働省,看護基礎看護教育検討会 報告書,令和元年10月15日
https://www.mhlw.go.jp/kango_kyouiku/_file/1.pdf（2024.1.10検索）
4）5）文部科学省,保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について（通知）,令和2年10月30日
https://www.mext.go.jp/content/20201105mxt_igaku-000006024_1.pdf (2024.1.10検索)
6）大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の習得を目指した学習目標,
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788_3.pdf （2024.2.12検索）
7）全国保健師教育機関協議会,保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正後の看護師教育課程における地域看護論の教育内容について,2021.3
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jachn/23/1/23_76/pdf/-char/ja
（2024.2.12検索）
8）前掲1）2）3）　（2024.2.12検索）
9）日本看護協会,　日本看護協会の取り組み「まちの保健室」,2001
https://www.kenkounippon21.gr.jp/kenkounippon21/katsudo/jirei/dantai/k1633.html
（2024.2.15検索）
10）NPO法人　白十字在宅ボランティア会
https://kuraho.jp/feature.html
（2024.2.12検索）
11）秋山正子総監修,「暮らしの保健室」ガイドブック,日本協会出版会,2021
12）神戸県立看護大学,「まちの保健室」活動
https://www.kobeccn.ac.jp/be_related/activity/infirmary/（2024.2.10検索）
13）鈴木達也他,地域保健室に関する文献検討,自治医科大学紀要,42,P47-56,201
14）聲高英代他,地域包括ケアシステムにおける「地域の保健室」の役割,甲南女子大学研究紀要,第16号,2022
15）高橋由美他,2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・看護論実習」に向けた授業構想,研究紀要青葉,第14巻第1号,2022
16）村山浩代他,4 年生カリキュラムにおける地域・在宅看護論の展開－地域・在宅で看護実践能力を発揮できる看護師の教育を目指して－神奈川県立平塚看護大学校紀要1号,
P28-32,2019
17）久保田真由美他,地域看護論における新カリキュラムの構築と実際～ふるさと自慢から地域を考える～,神奈川県立よこはま看護専門学校紀要,14号P48-53,2023
18）山田雅子,【すべての看護師にとっての,「地域・在宅看護論」】次世代に託せる看護とは何か,看護教育,Vol61.No6,P0464-0470,2020.06
19）片山陽子,【すべての看護師にとっての,「地域・在宅看護論」すべての看護師が身につけたい「目標志向型」の考え方,看護教育,
Vol61.No6,P0478-0486,2020.06
20）今田良子,【新カリキュラムに込めた想いと展望】領域横断科目で看護の学びを繋げる教育課程の検討,看護教育,Vol63.No2,
P222-229,2022
21）島田恵他,【地域とつながる看護教育】学生が地域から学びを得るために,　地域創生看護学とフィールドワーク演習,看護教育,
Vol 63.No3,P318-323,2022
22）栗本一美他,地域で暮らす人々の健康と生活を支える「地域看護学」の再構築,看護展望,
Vol47.No4,P101-105,2022
23）松本賢哉,様々な領域が融合した地域・在宅看護の教育方法,看護展望,Vol47.No4,2022

執筆者紹介（所属）
壬生　寿子　八戸学院大学　看護学科　教授